



福岡医発第 2442 号(総)

平成 23 年 3 月 8 日

各 医 師 会 長 殿

福岡県医師会

会長 松 田 峻一良

(公印省略)

「腰部脊柱管狭窄診断サポートプロジェクト」への協力について

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、一般社団法人日本脊椎脊髄病学会が行う「腰部脊柱管狭窄診断サポートプロジェクト (DISTO: Lumbar Spinal Stenosis Diagnosis Support Tool)」につきまして、福岡県臨床整形外科学会より別紙のとおり協力依頼がありました。

本会では、第 35 回理事会 (H23.3.3) において協議の結果、協力することといたしましたので、貴会におかれましても本件につきましてご了知いただくとともに、各会員にご周知くださいますようよろしくお願い申し上げます。

なお、資料の請求および同プロジェクトに関するお問い合わせ等につきましては、下記へご連絡くださいますようお願いいたします。

【問い合わせ先】

小野薬品工業株式会社

福岡支店 福岡営業所 (担当: 武本)

〒812-0023 福岡市博多区奈良屋町 2 番 12 号

TEL (092) 281-1154 FAX (092) 272-1244

小郡三井医師会より

学術・生涯教育担当理事 権藤秀之
会長 蒲池 壽

福岡県医師会

会長 松田 峻一良 様

謹啓 時下、先生におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日本臨床整形外科学会は国民の健康、医療、福祉に貢献することを目的として様々な社会的活動を行っております。

ロコモティブシンドロームの啓発活動もその一環として今後も学会で取り組む重要なテーマと考えられます。高齢者でロコモティブシンドロームに該当する方は、腰部脊柱管狭窄などの腰痛疾患を合併している場合が多く見られます。今回、一般社団法人日本脊椎脊髄病学会 理事長 菊地 臣一先生より「腰部脊柱管狭窄診断サポートプロジェクト(DISTO: Lumbar Spinal Stenosis Diagnosis Support Tool)の後援と協力のご依頼がありました。

このプロジェクトの目的は、一般社団法人日本脊椎脊髄病学会で作成された「診断サポートツール」と「患者さん自記式問診票」とを連動させた調査票を用いて、腰部脊柱管狭窄の診断や治療方針をより明確にすることにあります。また、「診断サポートツール」「患者さん自記式問診票」は臨床に携わる医師が、腰部脊柱管狭窄を早期に診断するために必要なツールとなるのを期待しております。福岡県臨床整形外科学会としては、本プロジェクトの趣旨に賛同し、ご協力したいと考えております。本研究により、腰部脊柱管狭窄の診断と治療の実態が把握され、早期発見と治療に貢献できるものと期待しております。更に高齢者の診療に係わられている多くの先生方に「腰部脊柱管狭窄診断サポートプロジェクト(DISTO-Proiect)」へのご参加を頂けますよう、お願い申し上げます。

謹白

平成23年2月吉日

福岡県臨床整形外科

光安 元夫

腰部脊柱管狭窄診断サポートプロジェクト
(DISTO-Project : Lumbar Spinal Stenosis Diagnosis Support Tool-Project)
からのお願い

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

ご承知のように高齢社会に伴い、骨や筋肉、関節などの運動器に何らかの問題を抱えている人が増えています。高齢者が快適な生活を営むためには運動器の健康は欠かすことのできない大切な要素です。近年、“動かないこと”が生活習慣病のみならず、寿命、癌、そして認知機能に深く関与していることが明らかにされました。中高年の介護が必要となる歩行障害の原因として骨粗鬆症や変形性膝関節症等があります。中高年の腰痛の原因として注目されている腰部脊柱管狭窄も歩行困難を招き、QOLの低下や要介護につながる運動器障害による疾患です。腰部脊柱管狭窄の特徴的な症状に、少し歩くと足のしびれや痛みがひどくなり、しばらく休むとまた歩けるようになる「神経性間欠跛行」とよばれる症状があります。患者さんは年のせいと諦めてしまったりすることも少なくありません。

今回のプロジェクトの目的はかかりつけの医師の方々に利用していただくために当学会で作成した「診断サポートツール」(2010年のclinical reviewで腰部脊柱管狭窄の診断に有用と紹介された)と合わせて東北腰部脊柱管狭窄研究会において作成された「患者さん自記式問診票」を連動させた新ツールを活用し腰部脊柱管狭窄の診断や治療方針をより明確にすることにあります。

またその結果を回収させて頂き、その結果を協力して戴いた先生に還元します。そして集計解析して得られた結果を運動器のプロである整形外科医の財産として、今後の診療にいかしていきたいと考えております。

また、調査にご協力頂いた先生方と調査結果を共有する場として趣旨に賛同いただいた協賛企業の小野薬品工業(株)と研究会を企画しております。

このプロジェクトを成功させるためには、日常診療で多くの腰痛疾患を抱えていらっしゃる先生方のご協力が不可欠であると考えております。

何卒主旨をご理解いただきプロジェクトにご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成22年12月吉日
一般社団法人 日本脊椎脊髄病学会
理事長 菊地臣一